

## 令和4年度 教育委員会 第20回定例会 議案

1 日 時 令和5年3月8日(水) 午後1時30分

2 場 所 教育委員会議室

3 日 程

(1) 開 会

(2) 議 案

<非>第40号議案 令和4年度永年勤続者表彰被表彰者の決定 … 非

<非>第41号議案 令和5年度管理職員(校長及び教育部管理職)人事異動 … 非

(3) 報告事項

(4) 閉 会



第20回定例会 報告事項

番号	項 目	Page
報告 事項 1	インクルーシブ教育保育研究「Spring プロジェクト」	P 1
配付 報告 1	監査結果に関する報告	P 3
<非> 報告 事項 2	令和 7 年度（令和 6 年度実施）教員採用選考の日程	非



(件名)

## インクルーシブ教育保育研究「Spring プロジェクト」(R4.4～R7.3)

(義務教育課)

## 1 目的

全ての子供の Well-Being の向上を目指して、外国にルーツをもつ幼児や発達に特性のある幼児に対し、ソーシャルワークや特別支援教育、言語指導等の専門性を有する人材を活用しながら、園内の支援体制の構築、幼児へのアセスメントと保育プログラムの開発、小学校への円滑な接続の在り方等を、異なる施設類型で研究し、幼児期から支援を開始することの教育的効果を調査・研究する。

《Spring プロジェクトの名称》Shizuoka Primary Education System “Ring” の略 静岡県の子小接続期の初等教育において、関係者や機関が輪になって組織的に教育・保育を行うという本研究の概要をイメージした。

## 2 研究推進地区及び研究モデル園の指定

- ・研究推進地区：沼津市（県東部）
- ・研究モデル園：公立保育所 私立保育所 私立幼保連携型認定こども園

## 3 研究の内容

## (1) 〈研究柱1〉園（組織）としての支援体制の確立

保育ソーシャルワーカーが定期的に研究モデル園を訪問し、園の支援体制やクラス運営に対するコンサルテーションを実施する。また、必要に応じて保護者相談も実施し、外部関係機関と園、保護者をつなぐことで、幼児教育施設におけるソーシャルワーカー等の活用効果について検証する。

\*保育ソーシャルワーカー（ソーシャルワークやカウンセリングのスキルをもつ有資格者）

## (2) 〈研究柱2〉幼小の円滑な接続を図る保育プログラムの開発（大学との協働）

インクルーシブ支援員が、言葉の獲得等につまずきのある幼児に対し、個別支援を実施し、対象児の学びや育ちを調査する。この調査結果を踏まえ、大学教員と協働で、どの施設でも実践できる保育プログラムを開発する。この保育プログラムは、言葉遊びやカードゲーム等の活動を通して、個々の言語能力に対する発達特性をアセスメントし、保育者が学級の中で個に応じた働きかけをすることで、幼児の自己肯定感を高め、小学校入学後の学習のつまずきを予防することを目的としている。よって、対象児の小学校入学後の適応状況も追跡調査していく。

\*インクルーシブ支援員（言葉の獲得等につまずきのある幼児に個別支援を行う教員）

## (3) 〈研究柱3〉幼児教育施設と小学校の連携体制整備

対象児に対し、園での支援と家庭での子育ての連続性を図ったり、小学校へ必要な情報を伝えたりするためのツールを開発する。また、幼小の職員による相互参観や子供の学びを協議する会議の実施等、支援の連続性を担保する仕組みを構築する。

## 《研究の流れ》

R 4（1年目）	R 5（2年目）	R 6（3年目）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握</li> <li>・人材活用による支援体制構築</li> <li>・保育プログラムの開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材活用による支援体制の強化</li> <li>・開発した保育プログラムの試行、改善</li> <li>・支援の連続性を担保する幼小連携の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果検証</li> <li>・まとめ・周知</li> </ul>

#### 4 研究推進体制

スーパーバイザーを東京学芸大学名誉教授 小池敏英氏に、研究リーダーを常葉大学保育学部准教授 赤塚めぐみ氏に委嘱して、研究推進委員会を組織し、研究の進捗状況を確認し今後の方向性等を協議する。

\*研究推進委員(モデル園教職員 小学校教員 特別支援学校教員 市教委指導主事 静東教育事務所担当 等)

#### 5 令和4年度の実績

##### (1) 年間日程

令和4年4月27日	研究推進地区(沼津市)での事業説明会
令和4年7月～令和5年1月	研究推進委員会 計6回実施
令和5年2月14日	研究推進地区(沼津市)での事業報告会

##### (2) 人材活用

###### ア 保育ソーシャルワーカー (週10時間勤務)

○モデル園等への訪問回数 延べ51回 (R4.5月～2月)

(対応内容) 子どもの行動観察(37.3%) 保護者相談(19.6%) 園内会議への参加(13.7%)

園へのコンサルテーション(13.74%) 情報収集のため外部機関への訪問(15.7%)

###### イ インクルーシブ支援員 (週10時間勤務)

○個別支援の実績

・7人の幼児に個別支援を実施

(5歳児2人 4歳児3人 3歳児2人 \*内、外国にルーツをもつ子3人)

・一人につき週1回、1回30分から40分程度

#### 6 令和4年度成果と令和5年度の方向性

##### (1) 〈研究柱1〉園(組織)としての支援体制の確立

- ・保育ソーシャルワーカーの活用によりモデル園での支援体制が充実し、保育内容についても改善がみられた。特に保護者相談は、園と保護者の関係を深めることの一助となった。
- ・モデル園の施設類型に応じて保育ソーシャルワーカーの活用の仕方に特色がみられた。ワーカーの活用について施設類型ごとに整理し、どの施設においても効果的な活用を研究していく。

##### (2) 〈研究柱2〉幼小の円滑な接続を図る保育プログラムの開発(大学との協働)

- ・対象児は、インクルーシブ支援員との個別活動により語彙が増え思いを言葉で表出するようになった。それが集団活動における情緒面の安定につながった幼児もいた。個の特性に応じた保育プログラムを実践することの効果が認められつつある。来年度は、対象児の入学後の様子を追跡し、幼小の円滑な接続という視点で、さらなる有効性を検証していく。
- ・開発している保育プログラムを県内に広く汎用できるものにするためには、モデル園で実践した保育プログラムをより多くの保育者が実践し、その有効性を検証する必要がある。そこで来年度は沼津市の他に研究推進地区として県西部の1市町を追加し、保育プログラムの試案を実践するパイロット園を新たに指定していく。

##### (3) 〈研究柱3〉幼児教育施設と小学校の連携体制整備

- ・保育ソーシャルワーカーが園と学校の橋渡しをすることで、モデル園と関係小学校との連携が促進され、職員同士の連絡会、園児の小学校訪問等、新たな交流が生まれた。
- ・支援の連続性を担保する仕組みを作るには、伝達する情報内容の精査や幼小の職員が互いの教育や保育に対する理解を図る研修の実施等、連携体制の構築を一層進めていく必要がある。

## 監査結果に関する報告

(財務課)

### 令和 4 年度第 4 回の監査結果

#### 1 指摘等事項の概要

令和 5 年 2 月 24 日に、今年度、第 4 回目の監査結果の報告があった。

今回は、令和 4 年 11 月 2 日から令和 5 年 1 月 26 日までに実施した県立学校等の監査についての報告で、教育委員会については、38 所属のうち、1 件の注意、11 件の指導が付された。

##### (1) 定期監査

<注意 1 件>

監査箇所	指 摘 等 事 項	
熱 海 高等学校	件名	建設工事における不適切な設計
	内容	熱海高等学校は、令和 3 年度に実施したフェンス更新工事において、風荷重による転倒に対する安全性を満足しない不適切な設計を行い、これに基づき施工した。

#### 2 今後の対応

今回の監査結果に対する措置状況について、令和 5 年 5 月 24 日までに監査委員へ報告する。

白  
紙